2012年　7月　30日

高松北ロータリークラブの皆さま

福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト
代表　　伊藤　洋
事務局：〒760-0022 香川県高松市西内町 7-25
TEL/FAX　：　087-813-0715
E-mail　：　ZVF05007@nifty.com
http://fukushimanokodomo.ashita-sanuki.jp/

「福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト：2012夏休み保養プログラム」について

当プロジェクトの保養プログラム実施にあたりましては、温かいご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。おかげさまで2011年夏休みには39名、2011年冬休みの保養プログラムには67名の福島の子どもたちとその保護者を迎えたほか、年間を通じて高松市内3か所の「おいでハウス」を活用した保養受入れなどにも取り組み、香川の自然の中でのびのびと子どもらしい時間を過ごしていただく活動に取り組むことができました。

これらの活動にあたっては、高松北ロータリークラブの皆さまの賛助会員としての力強いご支援を始め、香川県、さぬき市、中央共同募金会など多くの団体や企業のご支援や、たくさんのボランティアのご協力をいただいておりますことに心から感謝しております。

福島と香川をつなぎ、息の長い支援活動を続けるために、本年も香川県教育委員会、綾川町などのご協力をいただき、以下の通り福島の子どもたちとその保護者を受け入れます。暑い時期ですが、参加者の健康管理と安全確保に万全を尽くして充実した保養プログラムにしようと、ボランティアの仲間とともに準備を進めております。

今後ともご支援・ご協力いただけますよう何とぞよろしくお願い申し上げます。

福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト：2012夏休み保養プログラム

【実施期間】　8月9日（木）～8月20日（月）　11泊12日間（借り上げバスで送迎。1泊は車中泊）

【活動場所】　綾川町柏原渓谷キャンプ場コテージ（8月10日から3泊）
香川県立屋島少年自然の家　　（8月13日から7泊）

【参加者】　福島市、郡山市、いわき市、伊達市、白河市、須賀川市から計40人。
未就学児9人、小学生19人、中学生、高校生各1人、母親8人、父親2人

【活動内容】　キャンプファイアー（10日）、沢遊び、鮎のつかみ取り、そうめん流し（11日）、地元の祭りに参加（12日）、消防署見学、県庁展望ロビー訪問（14日）、カヤック作り、カヤック体験（15日）、プール遊び（16,19日）、小豆島での海水浴（17日）、地元のスポーツ団体の子どもたちと交流（18日）、お別れキャンプファイアー（19日）など。

振込先：百十四銀行　　本店営業部（普通）3124378　福島の子どもプロジェクト
ゆうちょ銀行　店名・六三八（ロクサンハチ）（普通）0677642
福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト

福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト

2012年7月

事務局　〒760-0022 高松市西内町7-25
TEL/FAX:087-813-0715　ZVF05007@nifty.com
http://fukushimanokodomo.ashita-sanuki.jp/

振込先:百十四銀行本店(普通)3124378
郵便振替:01660-0-116456
福島の子どもプロジェクト

福島の子どもたちに

香川での夏休み、冬休みを

放射能汚染の不安の中で暮らしている福島の子どもたちに、自然の中でのびのびと過ごしてほしい…そんな思いで、当プロジェクトは昨年7月に発足しました。たくさんの方のご支援とボランティアのご協力のおかげで昨年夏休みには39名の福島の子どもとお母さんたちを五色台少年自然センターに、冬休みには66名をみろく自然公園などに迎えることができました。

「おいでハウス」で春休み

庵治、牟礼に続き、高松市伏石町にも大家さんのご好意により「おいでハウス」が誕生し、これら3軒の「おいでハウス」には、春休みから連休にかけ計14家族46人を迎えました。3月29日にはさぬきこどもの国(香南町)、4月1日にはドングリランド(西植田町)で、のびのびと香川の自然を満喫し、移住しているご家族とも交流しました。このように「おいでハウス」では年間を通じて一時保養のご家族を受け入れています。

福島と香川をつなぐ

今年2月には、昨夏、昨冬の企画に参加されたご家族が大きな決意をして、ご一家で高松に移住して来られました(裏面をご覧ください)。

「福島に残るのもつらい、離れるのもつらい」…そんなつらい選択を強いられている福島の人たち…そのどちらの選択をも支えるために、これからも福島と香川をつなぐ支援活動を続けていきたいと思います。

どうぞあなたも仲間に加わってください。

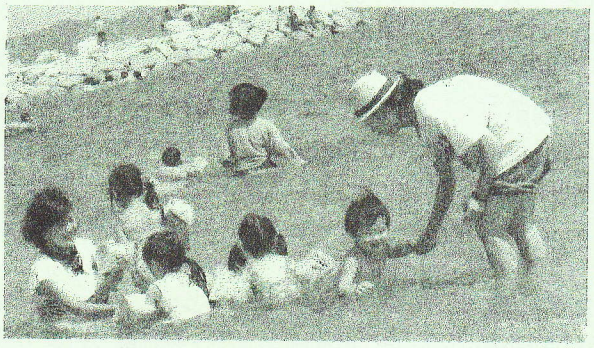
…今年も福島の子どもたちがやってくる…

★2012夏休み保養企画

8月10日～20日

柏原渓谷キャンプ場(3泊)
県立屋島少年自然の家(7泊)

今年も40名の福島の子どもたちを迎えます。資金面のご支援、子どもたちの見守りボランティアなど、ぜひあなたのお力を貸してください。



★募金箱を置かせて下さるお店も大募集中！

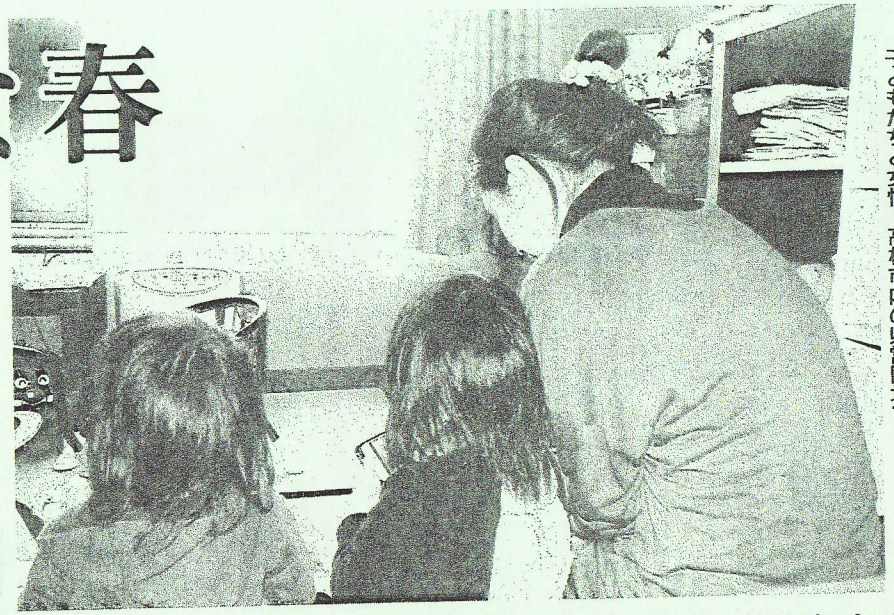
★保養や移住を希望する福島のご家族に無償で一時提供して下さる「おいでハウス」を探しています。当プロジェクトがお借りして責任を持って管理します。詳しくは事務局まで。

福島から香川へ 新たな春

毎日新聞香川版 2012.3.28

福島の子どもたちに屋外でのびのびと遊ぶ機会を提供したいと、県内のボランティアが始めた「福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト」。夏休みや冬休みにキャンプを企画するだけでなく、一時避難や移住のサポートへと支援の手を広げている。キャンプに参加したことをきっかけに、香川への移住を決めた家族を訪ねた。

【中村好見】



夏には新天地の香川で、家族がもう1人増える予定の子どもたちと女性＝高松市内の県営団地で

「今は前を見るしかない」

「家族はひとつ」母の思い

高松市内の県営団地。扉を開けると「いらっしゃいませーっ」と、長女(4)と次女(1)が、大きな声で元気よく出迎えてくれた。7月に出産を控える母親の女性(29)と共に先月、福島市から引っ越してきたばかり。同市に残っていた夫(29)も勤め先を辞め、今月から、ようやく一家そろっての新生活が始まった。

「ずっと、福島で暮らし続けられるのか、悩み続けてきた。最終的に大切にしようと思ったのは、ただ家族が笑顔で暮らしていくこと」。女性は、生まれ故郷でもある福島市を離れた気持ちを語り出した。

福島第1原発事故発生当時、次女はまだ生後10カ月。歩き始めたばかりで、何でも口に入れてしまう。「怒りたくないのに、心配で怒ってしまう。ノイローゼになりそうだった」。外出はなるべく控え、やむを得ず出かける時は、次女を常に抱いていた。

売られている食べ物は本当に安全か、自分たちは一体、どの位の放射線を浴びているのか。事故後、水を確保するため、子どもと外で並んだことが脳裏をよぎる。まだきちんと物事を理解できない幼い我が子に、事故や放射能について教えたくない。「自分自身も考えるのが嫌だったのかも」。女性が困った顔をするのを察してか、子どもも「外で遊びたい」と言わなくなった。

プロジェクトの存在を知ったのは、そんなころだった。11泊12日の夏休み企画に参加を申し込み、8月、女性は子ども2人と香川にやってきた。5カ月ぶりに、思いっきり外で遊ぶ娘たちの笑顔。「このまま戻りたくない」。3人はキャンプ終了後も、プロジェクト事務局が用意した高松市内の民間無償住宅「おいでハウス」に9月末までとどまり、同じ境遇の家族と共同生活を送った。

このまま、福島市で仕事を続ける夫と離れた生活になっても、移住するべきなのか迷った。しかし「パパと一緒に暮らせないなら、一生外で遊べなくていい」と大泣きする長女の姿に、心を揺さぶられた。そうして故郷に戻った11月中旬。お腹に新たな命が宿ったことが分かった。「その時、福島を出ることを決めました」。正月を挟んだ冬休みのキャンプに再び参加した3人を、迎えに来た夫も、ついに「離れようか」と口にした。

長女は4月に高松市内の幼稚園に入園、夫は職探しと、一家は新天地の香川で、新たな春を迎えた。長女が通うはずだった福島市内の幼稚園は、定員の半分しか入園児がいないと聞いた。残ることを決めた人。離れることを決めた人。両親や親戚、友達――。故郷を思わない日はない。けれども「今は前を見るしかない」。女性は2人の娘を抱きしめ、そっとお腹に手を添えた。

メモ

夏休みや冬休みに企画されたキャンプには、福島から延べ48家族、106人が参加。参加費はすべて募金や中央共同募金会の助成金などでまかなわれ、参加した県内のボランティアは大学生や主婦、会社員ら延べ500人に上る。またプロジェクトは、無償で借りている民間住宅「おいでハウス」を高松市内などに3軒用意。一時避難や、移住を考える家族を受け入れている。プロジェクトは今年の夏休みにも、キャンプ開催を予定しており、会員、ボランティア、おいでハウス用の住宅提供を呼びかけている。問い合わせは、事務局（087・813・0715）。

東日本大震災

Newsletter
2012年春号

香川と福島をつなぐ活動

1人でも多く福島の子どもたちを
放射能から守るために・・・・

福島の子どもたち 香川へおいで プロジェクト

【発　行】 福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト
【事務局】 〒760-0022香川県高松市西内町7-25
TEL／FAX:087-813-0715　E-Mail:ZVF05007@nifty.com
http://fukushimanokodomo.ashita-sanuki.jp/

2011冬休み企画
無事終了

福島の子どもたちとその家族67人がやってきました！

放射能汚染の不安の中で暮らしている福島の子どもたちと
小さいお子さんを連れたご家族を香川に迎え、
自然の中でのびのびと子どもらしい時間を過ごしてもらいたい…
それが「福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト」の発端でした。

2011 WINTER 冬はみろく自然公園で

夏休み企画に集ったボランティアのメンバーが、
今度は運営の中心スタッフとなって冬休み企画に取り組みました。
みろく自然公園（さぬき市）のログハウスに44名（20家族）
そして、庵治、牟礼、まんのうの３つの「おいでハウス」に
23名（7家族）の計67名を迎えて、12月28日～1月8日まで
11泊12日間の冬休みを過ごしていただきました。

schedule

12／28	飛行機便の第一陣到着
12／29	借り上げ夜行バスで第二陣到着 オリエンテーションと歓迎会
12／30	サッカーなどのスポーツ
12／31	もちつき
1／1	初日の出登山と新年会
1／2	書き初め、凧づくりと凧揚げ お雑煮食べくらべ大会福島vs香川
1／3	さぬきうどん作り
1／4	県と市の支援策説明会（さぬき市役所） おいでハウス見学
1／5	とらまる公園で人形劇観劇など（ご招待）
1／6	牧場見学とピザ作り体験（大山牧場）
1／7	お別れ会
1／8	借り上げバス、飛行機便でそれぞれ福島へ出発

福島出身のなすびさんも応援に☆

手作り凧で凧揚げ☆

アスレチックでおおはしゃぎ☆

本場香川でさぬきうどん作り☆

2012.2.11・12
福島市

福島の声に耳をすまして

さる2月11日、12日、福島市にて「放射能からいのちを守る全国サミット」が催され、当会からも3人が出席しました。これは、「子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク」をはじめとする、福島の団体、福島及び避難先の行政組織、そして全国の避難、保養、疎開の支援活動をしている団体が初めて一堂に会するという集まりです。実に400名以上の参加者、50もの団体が福島に集結しました。

01 福島駅前は1.276マイクロシーベルト

2月の福島、折りしも寒波到来中ということで、駅前にも雪がこんもりと。ところが、駅前の電光掲示板の線量計の値は毎時1.276マイクロシーベルトを示しており、静かな雪景色の中、色もにおいもない放射能の恐怖を改めて実感しました。ちなみに香川県のモニタリングポストでの計測値は、平時0.05マイクロシーベルト程度です。

02 全国の取り組みに学ぶ

一日目、全国のさまざまな取り組み、市民放射能測定室からの報告、北海道や京都など先進的な行政の取り組みなどが発表されました。午後からは5つのテーマごとに分かれての意見交換の分科会となりました。私たちは「避難者支援」「食品・測定」「保養」に参加しました。いずれも吸収すべきことの多い充実の内容でした。そして分科会を総括する形でパネルディスカッションとなり、課題点、提案事項などを共有しました。

2011 SUMMER

福島と香川をつないだ夏

子どもたち29名とお母さんたち10名の計39名を県立五色台少年自然センターに迎え、ともに過ごした昨夏の11泊12日間の夏休み…小学５年生の男の子は「大きな家族だったんだよ」と振り返りました。「色々悩んでいたけれど、福島を離れてみて初めて見えたものがある」と語ってくれた若いお母さん、「あの子たち、どうしてるだろう、と福島のことがもう他人事ではなくなった」と語る香川のボランティア…。福島と香川をつなぐ絆の種はまかれました。

WELCOME TO KAGAWA

背中を押したもの

新年会では、福島のお母さんたちが抱えていたつらい思いを語り合いました。「1歳半の末っ子は一度も外で遊ばせたことがなかった」「家のローンを抱えて引っ越すこともできず、悩み続けていた」「買い物に行っても『産地はどこだろう、安全だろうか』と悩み、結局何も買えずに帰ることもあった」…そんな中、「子どもたちを守るために一歩前に踏み出したい。香川の人たちに背中を押してもらった気がする」と、移住に向けて具体的な行動を開始したご家族もあり、そのうちの一家族が2月初旬、福島市から高松市に引っ越して来られました。

冬休み企画収支報告

【収入】

夏企画の残金	290,268円
寄付	984,785円
会費	136,000円
助成金	2,234,200円 ※1
負担金収入	81,320円 ※2
収入合計	**3,726,573円**

※1：中央共同募金会初回・中間金振込分173万円、ちば元気ファンド50万円　※2：講演会参加費、歓迎会ボランティア参加費、おいでハウス光熱水費負担金、歓迎会ボランティア参加費他　※3：バス借り上げ820,986円、航空券301,080円、交通費助成419,630円他　※4：野呂美加さん講演会開催費用を含む

【支出】

食料費	507,650円
設営・備品費	273,996円
消耗品費	368,033円
印刷費	21,327円
通信費	117,448円
光熱水費	151,875円
交通費	1,802,070円 ※3
保険料	53,504円
研修費	38,482円 ※4
宿泊費	7,405円
雑費	4,930円
会議費	12,576円
支出合計	**3,359,296円**
残金	367,277円

03 ひきもきらぬ相談者

二日目は各団体がブースを開き、避難や疎開・保養に興味のある方の相談に応じました。当会のブースにも20組以上の相談者が引きも切らず来訪され、そのつらい思いに耳を傾けながら涙をこらえるのが精いっぱいでした。

04 花見山を思う複雑な心

一方でこの日、見学会という形で市内でも放射線量の高い渡利地区、市民放射能測定室などでの勉強会が催されました。渡利での住民説明会の生々しい現実。特定避難勧奨地域の基準が行政区分によって異なっている矛盾。あちこちでガイガーカウンターが警報音を立てます。中でも福島の人にとって象徴的な思い入れのある、花見山を訪問できたことは印象深い体験になりました。春になれば去年と変わらず全山花ざかりとなるだろうこの山で、今年はもはや手放しではお花見を楽しむことはできないのです。

05 これからもつながって

「放射能から子どもたちを守る福島ネットワーク」の中手さんの「福島県民は否応なく自分たちの容量を越える重荷を背負わされている。『いのち』を守るのとともに大切なことは、人と人との『つながり』を断ち切らないこと」ということばが心に残りました。サミットの閉会にあたって、全国を横断する、全国協議会を結成することが決議されました。当会としてもささやかながら、この一翼を担えることを光栄に思います。今後とも放射能の不安を抱える方たちとともに、つながっていくこと、よりそっていくこと…ずっと続けて行きたいと思います。

福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト
あなたもぜひ仲間に加わってください！

放射能の不安の中で暮らす福島の子どもたちを
夏休みや冬休みに香川に迎える活動や
「おいでハウス」を活用した一時避難や移住の支援の他
講演会の開催、活動報告パネル展示などによって支援の輪を広げる活動にも取り組んでいます。

守る

1人でも多くの
福島の子どもたちを
1日でも長く
放射能から守る。

つなぐ

福島と香川をつなぐ
架け橋となり、
息長く支援を続ける。

広げる

知識と関心を高めあい、
すべての子どもたちの
未来を守る輪を広げる。

会　費

【一般会員】年会費2,000円
【賛助会員】1口5,000円（何口でも）（対象：個人・法人・団体・企業）

賛助会員の方は、ブログその他印刷物にて、ご支援くださっている旨、広報いたします。
なお、匿名をご希望の場合にはお申し出ください。

**会費
ご寄付等の
振込先**

百十四銀行本店営業部　（普通）3124378　福島の子どもプロジェクト

振込の記録はカタカナのご氏名だけとなりますので
お振込み後、ご連絡先やメールアドレスなどをご一報いただければ幸いです。

★その他、活動ボランティア、ホームステイ受け入れなど、皆さまのご支援をお願い申し上げます。また、募金箱を置かせて下さるお店も大募集中です。
★保養や移住を希望する福島のご家族に無償で一時提供して下さる「おいでハウス」を探しています。
当プロジェクトがお借りして責任を持って管理します。詳しくは事務局まで。

＊＊＊＊＊ ご支援・ご協力ありがとうございました！ ＊＊＊＊＊

当プロジェクトの活動は、多くの方からのご寄付とともに、赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」、ちば元気ファンドの助成金によって支えられています。
2011冬休み企画には、以下の団体・企業からのご支援・ご協力と、300名以上のボランティアの皆さまのご参加をいただきました。心よりお礼申しあげます。

《協力・支援団体、企業》
香川県、さぬき市、東かがわ市、県社会福祉協議会・災害ボランティア協議会、高松市ボランティア・市民活動センター、高松市消防職員協議会、さぬき市施設管理公社みろく温泉、さぬき市社会福祉協議会、とらまる人形劇研究所、香川県子ども文庫連絡会、高松北高校生徒会・家政部、津田漁業協同組合、さぬき市食生活改善推進協議会、さぬき市大川町ボランティア協会、友好の翼の会、ひまわり生活研究グループ、高松市ボランティア協会、東かがわ市ボランティアネットワーク、バンジョイ塾、社会福祉法人かがわ総合リハビリテーション事業団、カトリック桜町教会、「庵治石の声」東京公演・香川公演、常磐町商店街振興会、さぬき市商工会、コープ自然派オリーブ、バンジョイ塾、さぬき有機の里推進会、よしむら農園、レインボーの会、日本手袋工業組合、絹島温泉　ベッセルおおちの湯、ピコットの会、さぬき市ケーブルネットワーク、高松リビング新聞社、和幸、四国整体たどつ院、森本農園、アートパックYOU、中野小児科医院、一の宮校区子ども会、（株）徳武産業、（株）フクシン、（株）ヒューマンネット、（有）大山牧場（うしおじさん）、（株）魚辰、（株）中央、（有）たも屋、（株）エリス、（株）ガリバーインターナショナル、（株）ウィンド・ラブ、（株）トーカイ、（株）福島交通
《募金箱設置協力店》
かね荘、イタリアン伊酒屋 HACHI、cafe orange jam & surf、こにしたこ焼き、古遊茶、MACCA、池田お好み焼き店、GRAPH、ルビー商会、焙煎元和楽 、輪楽、cafe 茶蔵（カフェ サクラ）、焼肉　大寿、讃州井筒屋敷、カフェ・セゾン、ファイブ・ペニーズ、きっさ　道、SHIGEKI'S NEXT、Irie Ites、大山牧場（うしおじさん）、ティファニー、ボックスギャラリー・メイクメリー、かえるちゃんカフェ、TAG（トキワアートギャラリー）、阿吽、めだかの学校、松崎たこやき店、蕎麦ふるかわ、ルコルシ、ヤマザキショップ飯山東坂元店、ターミナル・ホテル、ル・ミエル・シュクル、コーヒービーンズショップ・アロバー、MeiPAM、CaravanSary CAFE、hana-hiyo、カフェ草庵一人静、ナチュラルスタイル
《賛助会員》
福武産業株式会社、東交バス株式会社、中村聖二、神内民子、木村ゆみ（他匿名希望5名）
《福島県内の協力団体》
飯館村教育委員会、子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク、NPO法人ビーンズふくしま、ハーメルン・プロジェクト

以上　敬称略・順不同